

東北6大祭りの経済効果

平成19年8月22日

株式会社荘銀総合研究所

1. はじめに

東北には全国的にも有名な夏祭りが数多く存在する。なかでも、「青森ねぶた祭り」(青森県)「秋田竿燈祭り」(秋田県)「盛岡さんさ踊り」(岩手県)「仙台七夕祭り」(宮城県)「山形花笠祭り」(山形県)「相馬野馬追」(福島県)は、しばしば“東北6大祭り”と呼ばれる。東北6大祭りは毎年7月下旬に開催される「相馬野馬追」を筆頭に、8月上旬までには各地でいっせいに開催されることから、今や東北各地に本格的な夏の訪れを告げる風物詩として広く知られているところである。

さて、東北6大祭りの開催期間中は、各地とも毎年大勢の観光客で賑わいをみせている(図表1参照)。この時期は県外ナンバーの自家用車や観光バスの姿を目にする機会も多く、祭りを観覧しながら東北各地を巡るといふ観光客も多いに違いない。近年、観光は地域づくりの観点からも大いに注目を集めるようになっており、観光資源の掘り起こしに努める自治体は多いが、夏祭りという観点から観光振興を考える上でも夏祭りの経済効果を測ってみる意義は大きいだろう。

そこで、本調査では東北観光の大きな呼び水ともなっている東北6大祭りの経済波及効果を計測することとした。以下では、今年開催された東北6大祭りを例に取り、東北6大祭りが東北経済に及ぼすインパクトについて定量的にその効果を示した。これを機会に夏祭りが持つ“経済的エネルギー”の大きさを多くの方々に実感していただき、夏祭りの開催を盛り上げるとともに、東北の地域振興に少しでも役立つことになれば幸いである。

図表 1 “東北6大祭り”の観光客入込状況

名称	開催県	開催期間	観光入込客数
青森ねぶた祭り	青森県	6日間	310万人
秋田竿燈祭り	秋田県	4日間	121万人
盛岡さんさ踊り	岩手県	4日間	128万人
仙台七夕祭り	宮城県	3日間	203万人
山形花笠祭り	山形県	3日間	101万人
相馬野馬追	福島県	4日間	18万人

資料出所:主催者よりヒアリング



写真提供:青森ねぶた祭実行委員会



写真提供:秋田市竿燈まつり実行委員会



写真提供:盛岡さんさ踊り実行委員会



写真提供:仙台七夕まつり協議会



写真提供:荘内銀行



写真提供:相馬野馬追執行委員会

2. 調査の方法

東北6大祭りを訪れた観光客の消費支出額（最終需要）を推計し、それを基に「平成12年東北地域産業連関表(75部門)」を利用して東北における経済波及効果を算出した。なお、最終需要の推計方法については巻末資料を参照されたい。

3. 東北6大祭りの経済効果

(1) 観光消費支出額（最終需要）の推計結果

この夏に開催された東北6大祭りにおいて、観光客が支出した観光消費支出額（最終需要）を推計したところ、総額1,426億円となった（図表2参照）。祭り別にみた観光消費支出額は、「青森ねぶた祭り」の総額497億円が最も多く、以下、「仙台七夕祭り」332億円、「盛岡さんさ踊り」208億円の順となっている。

「青森ねぶた祭り」の観光消費支出額が最も多かったのは、開催期間が6日間と長く、観光入込客数（延べ）も6大祭りの中で最多となる310万人にのぼったことが主な原因である。

図表 2 東北6大祭りの観光消費支出額（最終需要）

	観光消費支出額(最終需要) 【百万円】
青森ねぶた祭り	49,689
秋田竿燈祭り	19,495
盛岡さんさ踊り	20,820
仙台七夕祭り	33,171
山形花笠祭り	16,445
相馬野馬追	2,991
計	142,612

注)四捨五入により、最終需要額は各祭りの最終需要額の合計と一致しない。

(2) 経済波及効果

(1)で推計した観光消費支出額(1,426億円)を基に、「平成12年東北地域産業連関表(75部門)」を利用して東北における経済波及効果を算出した(次頁、図表3参照)。

経済波及効果は、生産誘発額が1,718億円、粗付加価値誘発額が1,026億円、雇用者所得誘発額が534億円であった。粗付加価値誘発額は、東北の産業が生み出した付加価値額であり、いわゆる東北地域内総生産(GDP)に相当する。東北のGDP(名目)は約33兆円(平成16年度)となっているので、東北6大祭りの開催に伴ってGDPを0.3%程度押し上げる効果があると推測される。

図表 3 東北6大祭りの経済波及効果

(単位: 億円)

最終需要額	1,426
-------	-------



	生産誘発額	粗付加価値誘発額	
		雇用者所得誘発額	
直接効果	814	489	292
第1次間接効果	322	183	85
第2次間接効果	582	355	157
経済波及効果	1,718	1,026	534
波及倍率	1.20	(生産誘発額の最終需要に対する波及倍率: /)	
	2.11	(生産誘発額の域内需要に対する波及倍率: /)	

注1) 直接効果とは、東北で生産されている商品に対して観光客が支払った金額である。したがって、たとえ東北で販売されていても、製造元が東北でない商品への支出額は含まれない。

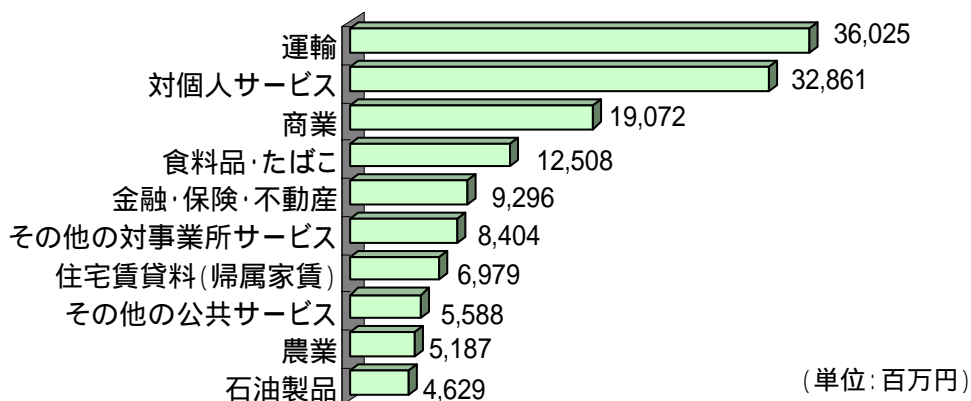
注2) 間接効果とは、雇用者所得の増加を通じて支払われる家計消費のうち、東北で生産されている商品に対する支出額である。

注3) 四捨五入により、経済波及効果は各項目の合計額と必ずしも一致しない。

また、産業部門別に経済波及効果（生産誘発額）の大きさを見てみると（図表4参照）、運輸部門への波及額が最も大きく360億円であったほか、対個人サービス（329億円）、商業（191億円）への波及効果も大きかった。なお、対個人サービスへの波及効果が大きかったのは、部門分類上、観光客の消費支出のウェイトが高い宿泊業や飲食店などがここに含まれるためである。

このほかにも、75部門中73部門への波及効果が認められるなど、祭りの経済波及効果は広範囲に及ぶことが分かった（巻末資料参照）。

図表 4 経済波及効果の大きい産業部門（上位10部門）



(単位: 百万円)

4. おわりに

祭りの開催に伴って生じる需要には、今回推計した観光客の消費支出額のほかに、主催者経費（広告宣伝費や会場設営費など）や参加者経費（山車等制作費、衣装費、飲食費など）がある。たとえば、「青森ねぶた祭り」の開催にあたっては、毎年2億円以上の経費が費やされている¹、「竿燈祭り」で使用される竿燈も一本あたり30万円以上の制作費がかかっている²。このように、祭り開催の各種経費を考慮すれば、最終需要はさらに増えるものと見込まれる。したがって、上記推計結果はあくまでも東北6大祭りの多大な経済効果を示すほんの一部にすぎない。

また、冒頭で触れたように、東北には今回推計の対象とした夏祭りの他にも数多くの夏祭りが存在する。たとえば、東北運輸局が調べたところによれば、東北には8月中に開催される夏祭りだけでも24件あり（図表5参照）、これらをすべて考慮した場合の経済効果は6大祭りを大幅に上回るだろう。

一方、言うまでもないが、夏祭りの効果は金銭的な価値に置き換えられるものばかりではない。祭りをきっかけに世代や地域を越えたコミュニケーションの輪が築かれ、各地の歴史や文化、伝統など、さまざまな情報を広く共有することができる。交流を通じて地域の魅力を伝えることができれば観光客のさらなる誘客にもつながるだろうし、また、近年希薄化しつつあると言われる地域住民同士の結びつきをもう一度強めることにもつながるだろう。夏祭りには経済・社会・文化など、あらゆる面から東北の活力を高める効果があるという点も強調したい。

最後になるが、本調査レポートを作成するにあたっては、祭りの主催者をはじめ、関係機関から快く取材やデータの提供にに応じていただいた。この場を借りてお世話になった方々へ深くお礼を申し上げる。

図表 5 東北各地の夏祭り一覧（8月開催分）

開催都市		名称	開催都市		名称
青森県	青森市	青森ねぶた祭り	宮城県	仙台市	仙台七夕まつり
	五所川原市	五所川原立佞武多		石巻市	石巻川開き
	弘前市	弘前ねぶた祭り		塩竈市	塩竈みなと祭り
	八戸市	八戸三社大祭		松島町	松島灯籠流し花火大会
	八戸市	八戸花火大会	山形県	山形市	花笠祭
秋田県	秋田市	竿燈まつり		新庄市	新庄まつり
	大仙市	全国花火競技大会		村山市	むらやま徳内まつり
	湯沢市	七夕絵どうろう祭り		鶴岡市	荘内大祭
	鹿角市	花輪ばやし	福島県	いわき市	いわき夏まつり
資料出所: 東北運輸局「図で見える盛岡の歴史」	盛岡市	盛岡大輪は踊り		福島市	福島夏まつり
大船渡市	三陸・大船渡夏まつり	須賀川市		釈迦堂川花火大会	
一関市	一関夏まつり	郡山市		郡山うねめまつり	

¹ 青森ねぶた祭り実行委員会「平成18年度青森ねぶた祭り実行委員会会計収支決算書」より

² たとえば、秋田市竿燈まつり実行委員会公式webサイト <http://www.kantou.gr.jp/uraneta.html> を参照のこと。

巻末資料

・観光消費支出額の推計方法について

観光客の消費支出額を推計する場合、観光客が日帰りだったのかそれとも宿泊を伴ったのかによって支出する金額は大きく異なるため、消費支出額の推計にあたっては日帰り・宿泊別に推計することが望ましい。以下では、本調査で行った観光客の消費支出額の推計方法とその結果について解説する。

1. 日帰り・宿泊別観光客数の推計

祭りの主催者が公表しているのは基本的に観光入込客の総数だけであり³、観光客の消費支出額を日帰り・宿泊別に推計するには、何らかの方法でこの値を日帰り・宿泊別に按分しなければならない。按分方法は、国や県が公表している観光統計の日帰り・宿泊別の観光客構成比などを用いて按分する方法も考えられるが、この方法では消費支出額の過大推計に繋がる可能性が大きく⁴、適当な方法とは言えない。

そこで、本調査では祭りが開催される各都市の宿泊施設の収容人員（許可ベース）を利用し、これに国土交通省「宿泊旅行統計調査（平成18年6月～8月分）」の「稼働率（観光目的の宿泊者が50%以上の施設）」を掛け合わせて宿泊客数を推計した。

なお、現時点では昨年の稼働率しか公表されていないため、推計される宿泊客数は今年の観光入込客数の動向を捉えきれしていない。したがって、観光入込客数の対前年比を利用して補正した。推計結果は以下の通り（図表 参照）。

図表 祭り開催期間中における宿泊客数（延べ）の推計結果

	開催都市の収容人員 【人】	開催期間 【日】	延収容人員 【人】 (= ×)	客室稼働率 (平成18年) 【%】	延宿泊客数 (平成18年) 【人】 (= ×)	観光入込客 の増減率 【%】	延宿泊客数 (平成19年) 【人】 (= ×)
青森ねぶた祭り	青森市：12,931	6	77,583	42.6	33,050	-8.0	30,402
秋田竿燈祭り	秋田市：9,854	4	39,416	44.1	17,382	-12.5	15,203
盛岡さんさ踊り	盛岡市：10,039	4	40,156	42.8	17,187	8.7	18,687
仙台七夕祭り	仙台市：29,053	3	87,159	45.9	40,006	-5.1	37,950
山形花笠祭り	山形市：14,602	3	43,806	37.7	16,515	0.0	16,515
相馬野馬追	南相馬市：-	-	-	-	-	-	4,860

注1) 青森市は収容人員ではなく客室数の公表となっているため、宿泊施設数を基に当社が別途推計した。

注2) 四捨五入により、手順通り計算しても計算結果は図表の値と一致しないことがある。

資料出所：各保健所調べ、国土交通省「宿泊旅行統計調査（平成18年6月～8月分）」

³ 福島県は「福島県統計年鑑2007」において「相馬野馬追」の観光客数を日帰り・宿泊別に公表しているため、日帰り・宿泊別の観光入込客数を求める際には、この構成比をパラメーターとして利用した。

⁴ 各県の観光統計を用いて祭りの観光入込客数を日帰り・宿泊別に按分しようとする、推計結果は各都市が持つ宿泊客の受け入れ人数を大幅に上回ってしまう。たとえば、青森県「平成18年青森県観光レクリエーション客入込数調査結果概要」によれば、同県を訪れる観光客のうち宿泊客は年平均8.6%とされているが、この値をもって「青森ねぶた祭り」の宿泊客数を推計すると、その数は延べ27万人（=310万人×8.6%）となる。ところが、青森市内の旅館・ホテル等の宿泊施設数（許可ベース）から推計される宿泊者の収容人員は8万人程度（開催期間中の延収容人員数）であり、28万人もの宿泊客が訪れたと見なすのはあまり現実的ではない。したがって、この値を基に観光消費支出額を推計すれば、過大推計の原因となる可能性が大きい。

2. 消費支出額（最終需要）の推計

続いて、(1)で求めた観光客数を基に日帰り・宿泊別の消費支出額を推計する。推計にあたっては、国土交通省「平成17年度旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究」で公表している国内旅行者1人あたりの「旅行支出」（「主目的が東北」の支出額）を利用し、(1)で求めた観光客数にその支出額を掛け合わせることで消費支出額を求める。

ただし、国内旅行者1人あたりの「旅行支出」は旅行中の支出だけでなく、旅行者が旅行の前後に支払った金額（フィルム購入費や写真現像費など）も含んでいる。このため、(1)で求めた観光客数にそのまま「旅行支出」を掛け合わせてしまうと、東北以外から訪れた観光客が旅行前後に支出した金額まで含んでしまうことになる。厳密に言えば、こうした東北以外の地域（すなわち居住地）で支払った“旅行前後の消費支出額”は東北における経済波及効果ではなく、この金額を差し引かなければならない。

そこで、宿泊観光客についてはさらに居住地別の人数を推計し（図表 参照）居住地が東北でない宿泊観光客の“旅行前後の消費支出額”を差し引いた金額をもって、消費支出額（最終需要）とすることにした。推計結果は以下の通り（次頁、図表 参照）。

なお、日帰り観光客については、便宜上、すべて東北に居住地があると仮定した。

図表 居住地が東北でない宿泊観光客数の推計結果

	居住地が東北でない 宿泊者の割合 【%】	延宿泊客数	
		【人】 (再掲)	うち、居住地が 東北でない宿泊者 【人】 (= ×)
青森ねぶた祭り	95.4	30,402	29,004
秋田竿燈祭り	64.2	15,203	9,760
盛岡さんさ踊り	58.8	18,687	10,988
仙台七夕祭り	80.8	37,950	30,664
山形花笠祭り	65.2	16,515	10,768
相馬野馬追	82.5	4,860	4,010
計		123,617	95,193

注) 四捨五入により、手順通り計算しても計算結果は図表の値と一致しないことがある。

資料出所: 国土交通省「宿泊旅行統計調査(平成18年6月~8月分)」

図表 消費支出額（最終需要）の推計結果

	観光入込客数 【万人】			1人あたり旅行支出額 【円】		消費支出額 【百万円】		
	日帰り	宿泊 (再掲)	うち、居住 地が東北 でない者 (再掲)	日帰り	宿泊	日帰り (= ×)	宿泊 (= ×)	うち、居住 地が東北 でない者 (= ×)
青森ねぶた祭り	307.0	3.0	2.9	15,710	56,114	48,223	1,706	1,628
秋田竿燈祭り	119.2	1.5	1.0			18,723	853	547
盛岡さんさ踊り	126.4	1.9	1.1			19,862	1,049	616
仙台七夕祭り	199.2	3.8	3.1			31,295	2,130	1,721
山形花笠祭り	99.3	1.7	1.1			15,608	927	604
相馬野馬追	17.5	0.5	0.4			2,751	273	225
計	868.6	12.4	9.5			136,463	6,937	5,341

	旅行支出に占める 旅行前後の支出額 【%】	控除額 【百万円】 (= ×)	消費支出額 (最終需要) 【百万円】 (= + -)
青森ねぶた祭り	14.8	240	49,689
秋田竿燈祭り		81	19,495
盛岡さんさ踊り		91	20,820
仙台七夕祭り		254	33,171
山形花笠祭り		89	16,445
相馬野馬追		33	2,991
計		788	142,612

注)四捨五入により、手順通り計算しても計算結果は図表の値と一致しないことがある。

資料出所:国土交通省「宿泊旅行統計調査(平成18年6月~8月分)」

・部門別経済波及効果

順位	部門名	生産誘発額 (百万円)	順位	部門名	生産誘発額 (百万円)
1	運輸	36,025	39	ゴム製品	202
2	対個人サービス	32,861	40	精密機械	194
3	商業	19,072	41	無機化学基礎製品	191
4	食料品・たばこ	12,508	42	鋼材	190
5	金融・保険・不動産	9,296	43	合成樹脂	181
6	その他の対事業所サービス	8,404	44	繊維工業製品	165
7	住宅賃貸料(帰属家賃)	6,979	45	その他の輸送機械	154
8	その他の公共サービス	5,588	46	非鉄金属加工製品	143
9	農業	5,187	47	化学肥料	132
10	石油製品	4,629	48	一般産業機械	110
11	飲料	3,714	49	林業	106
12	電力	3,256	50	銑鉄・粗鋼	99
13	通信・放送	2,877	51	原油・天然ガス	95
14	水道・廃棄物処理	1,754	52	建設・建築用金属製品	93
15	出版・印刷	1,734	53	再生資源回収・加工処理	86
16	漁業	1,388	54	電子計算機・同付属装置	85
17	その他の自動車	1,290	55	特殊産業機械	81
18	その他	1,206	56	事務用・サービス用機器	79
19	建築及び補修	1,015	57	その他の一般機器及び部品	75
20	プラスチック製品	884	58	その他の窯業・土石製品	74
21	その他の製造工業製品	883	59	石油化学基礎製品	70
22	化学最終製品	873	60	通信機械	67
23	調査・情報サービス	861	61	陶磁器	63
24	衣服・その他の繊維製品	753	62	その他の鉄鋼製品	62
25	乗用車	688	63	非鉄金属製錬・精製	56
26	パルプ・紙・板紙・加工紙	671	64	鋳鍛造品	52
27	民生用電子・電気機器	638	65	半導体素子・集積回路	51
28	紙加工品	589	66	化学繊維	34
29	その他の金属製品	544	67	セメント・セメント製品	33
30	医薬品	410	68	重電機器	32
31	電子部品	402	69	非金属鉱物	23
32	公務	301	70	石炭製品	20
33	有機化学製品	286	71	石炭	12
34	その他の電気機器	231	72	電子応用装置・電気計測器	6
35	ガス・熱供給	230	73	金属鉱物	1
36	ガラス・ガラス製品	228	74	公共事業	0
37	家具・装備品	215	75	その他の土木建設	0
38	製材・木製品	205		計	171,791

注)四捨五入により、合計額が各項目の合計と必ずしも一致しない。

．東北地域産業連関表を用いた他の分析事例

1．東北楽天ゴールデンイーグルスの経済波及効果（生産誘発額）

- ・ 直接効果：120 億円
- ・ 経済波及効果：195 億円
- ・ 波及倍率：1.63 倍

2．関東自動車工業（株）岩手工場の経済波及効果（同）

- ・ 直接効果：1,947 億円
- ・ 経済波及効果：2,937 億円
- ・ 波及倍率：1.51 倍

資料出所：東北経済産業局

<お問い合わせ先>

株式会社荘銀総合研究所・研究開発グループ

齋藤 信也（さいとう しんや）

〒990-0043

山形県山形市本町1-4-21 荘銀山形ビル8F

TEL：023-626-9017

FAX：023-626-9038

E-mail：saitou@sfsi.co.jp

URL：http://www.sfsi.co.jp/